



# 「博士人材追跡調査」第1次報告書

## -2012年度博士課程修了者コホート-

2015年12月21日  
科学技術・学術審議会総会

文部科学省科学技術・学術政策研究所

# 1. 博士人材のキャリアパス把握の背景・目的

- ・【期待】 博士人材は、持続的な科学技術イノベーションの主たる担い手
- ・【現実】 博士人材を取り巻く状況は厳しく、かつ社会全体における博士人材の**活躍状況の把握・提示**がなされていない
- ・【海外】 米・英・仏では博士課程修了後に定期的・追跡的な調査を実施



我が国においても博士人材のキャリアパスの把握・可視化に向けた取組を行い  
客観的根拠に基づいた科学技術政策・人材政策の立案に貢献



修了年を特定した博士課程修了者  
全数調査としての「博士人材追跡調査(JD-Pro)」の実施



2015年11月、第1次調査結果を公表



継時的・持続的な進路状況把握システム(プラットフォーム)としての「博士人材データベース(JGRAD)」の構築



2015年11月現在、22大学に拡大

## 2. 博士人材追跡調査(JD-Pro)の概要



- 「博士課程を修了した集団」(コホート)の年度を固定し、個人を対象に調査
- 就業状況(任期や職位)の明確な情報や、個人の意識などが捕捉可能
- 米国は1973年、英は1994年、仏は1998年から実施
- 2012年度コホート第1回調査を実施し、回答率は約4割



### 第1回 調査の概要

実施期間: 2014年11月～12月

対象者: 2012年度の博士課程修了者全員

対象者数 (大学報告による)	15,477
有効回答数	5,052 (回答率 38.1%)

# 雇用先とアカデミアの任期制雇用

- 雇用先は、**アカデミア**（大学・短大・高専、公的研究機関等）が**約6割**、民間企業等が**約3割**。
- 雇用先がアカデミアの場合、**約6割が任期制雇用**。

雇用先の経営組織



アカデミアにおける任期制雇用

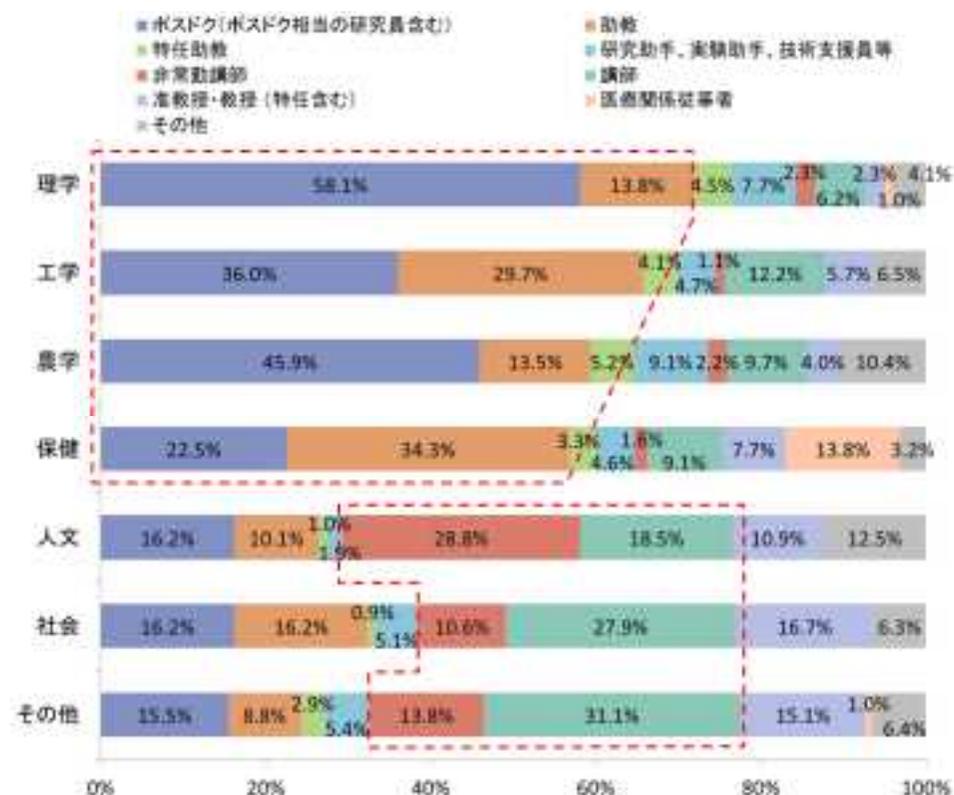
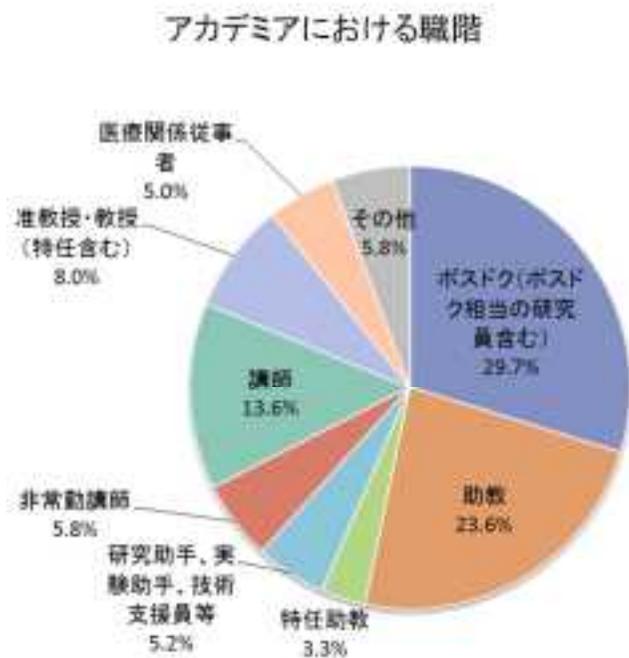


注) 大学・公的研究機関を「アカデミア」、それ以外の民間企業、非営利団体、その他を「非アカデミア」とした。

出典：NISTEP REPORT NO.165

# アカデミアにおける職階

- 分野ごとにアカデミアにおける職階は異なる。
- 理系ではポスドク、助教が多い(但し、特任助教は少数)。
- 文系では非常勤講師、講師が多い。

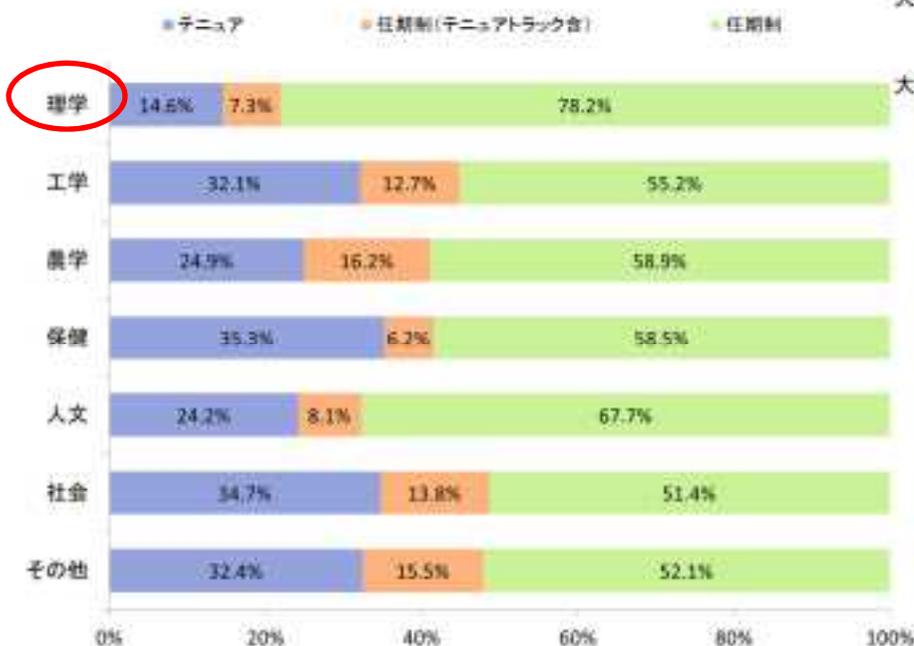


出典: NISTEP REPORT NO.165

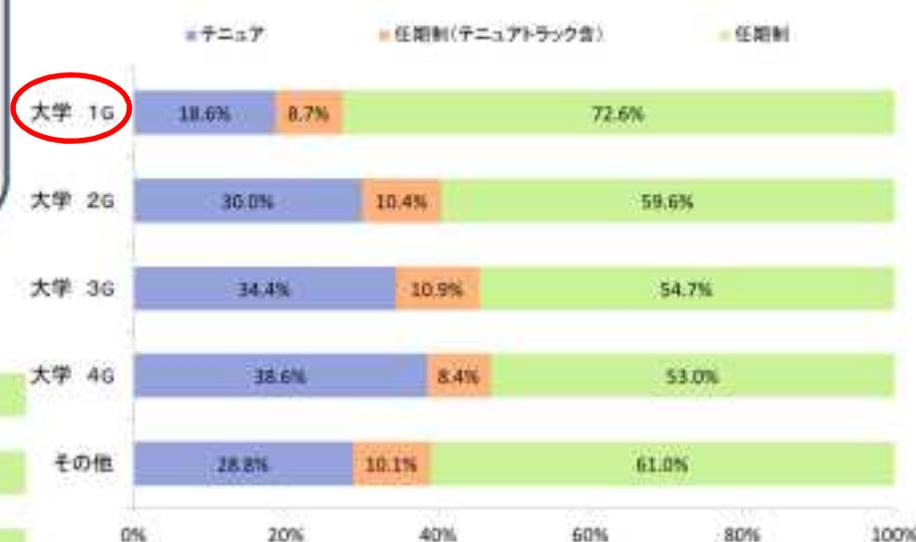
# アカデミアにおける任期制の状況

- 理学で任期制雇用が多い。
- 論文シェアの高い第1グループで任期制雇用が多い。
- 「課程学生」かつ「理学」かつ「大学第1グループ」では84%が任期制  
(→次年度のテニュア移行率が重要)

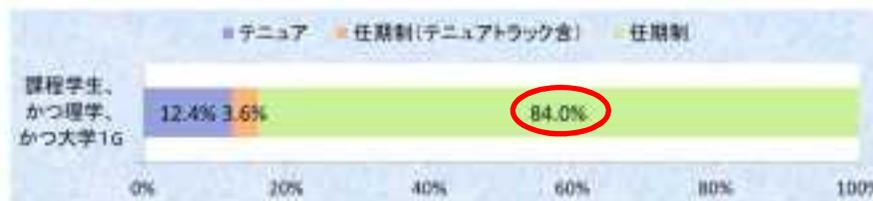
アカデミアにおける任期制雇用(分界別)



アカデミアにおける任期制雇用(大学グループ別)



アカデミアにおける任期制雇用  
(課程学生&理学&大学第1グループ)



注) 理学の中分類には、数学、情報科学、物理、化学、生物、地学、その他、がある。

# 非アカデミアの場合－民間企業での雇用状況

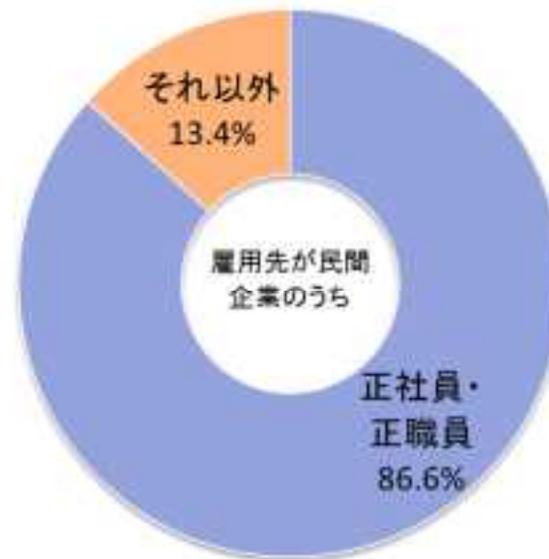


- 民間企業への就職者は**大企業**に多い。
- 民間企業の場合、**9割**近くが正社員、正職員として雇用されている。

雇用先民間企業の企業規模



民間企業における雇用形態



注) それ以外とは、契約社員(任期制研究員含む)、パートタイム、派遣、個人事業主等

出典: NISTEP REPORT NO.165

# 非アカデミアにおける —キャリアパス拡大の可能性



- 非アカデミアの職業は、**研究者、製造技術者(開発)、医師**が多い。
- これ以外に、今後、**拡大可能性があると思われる職業**を5つの領域に分類している。

回答数の多い職業分類(課程学生、かつ非アカデミア)

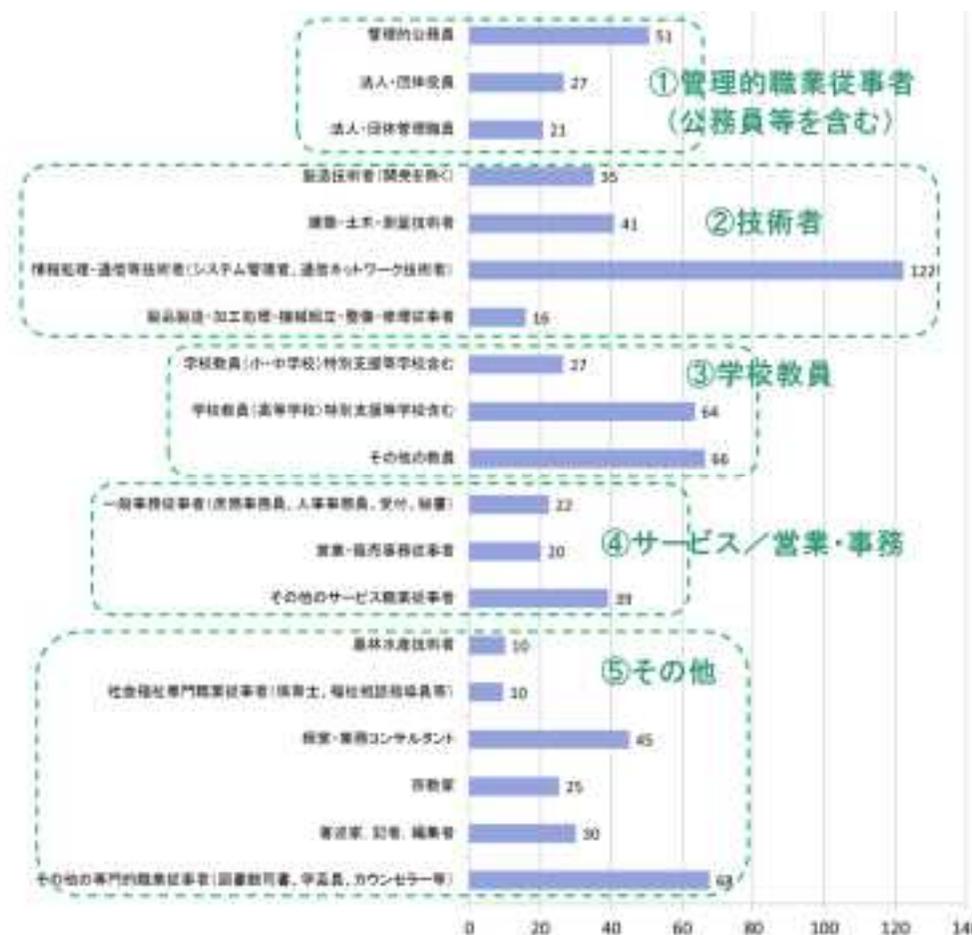
職業分類	N
研究者(自然科学系・人文社会科学系)	190
製造技術者(開発)	208
医師	87

注1)Nは母集団を推計した場合の人数。

注2)「日本標準職業分類(平成21年12月統計基準設定)」に準じ、博士に対応したコードに調整した分類。(全52種)

注)右図は回答数の多い、研究者、製造技術者(開発)、医師、医学系の職業を除き、少数回答をグラフ化したもの。  
数値は母集団推計した値(N)。

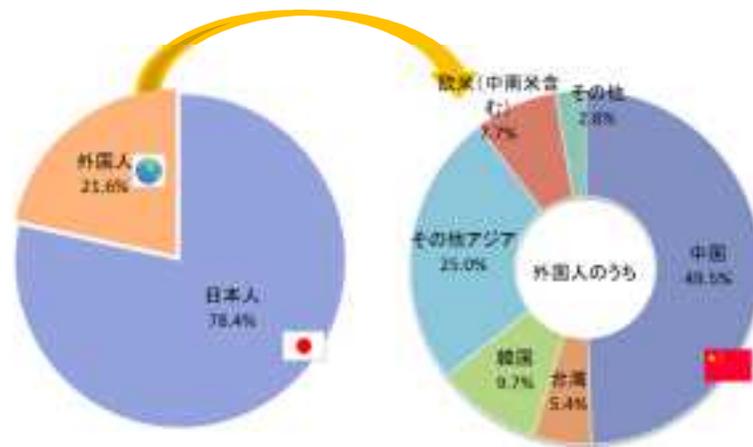
就業拡大可能性のある職業(課程学生、かつ非アカデミア)



# 多様な人材の活用と国際流動

- 外国人(留学生)は博士課程学生の2割程度で、半数近くが中国からの留学生。
- 「その他のアジア」まで含めると、約9割がアジアからの留学生。
- 日本人で海外に在住している者は5%程度であり、非常に少ない。居住国の半数以上はアメリカ。

日本人と外国人(留学生)の比率と国籍



国籍別、現在の所在地



在外日本人の居住地

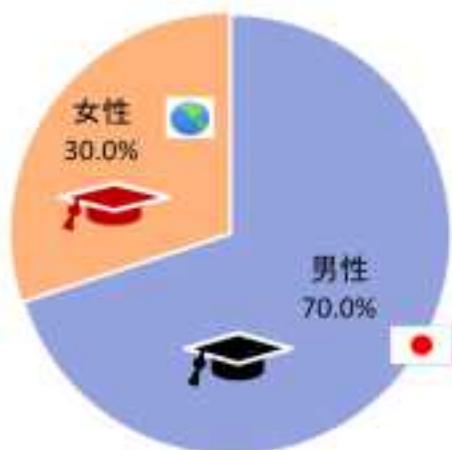


出典: NISTEP REPORT NO.165

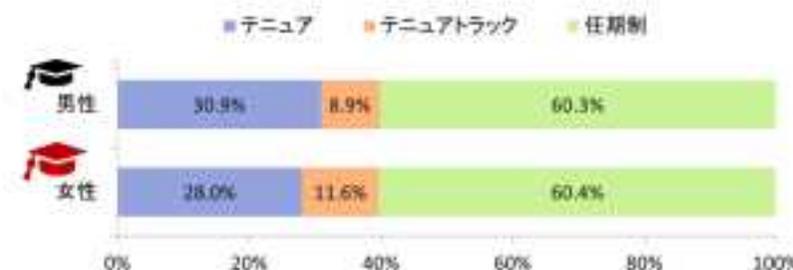
# 女性研究者の活躍促進の視点から

- 女性は全体の3割程度、雇用先が**アカデミア**の比率が多い。
- アカデミアにおける**任期制雇用**の男女差はあまりない。
- 非アカデミアの場合は、**正社員・正職員**比率が男性に比して**顕著に低い**。

男女の比率と雇用先機関



アカデミアにおける任期制雇用の現状(男女別)



非アカデミアにおける就業上の地位(男女別)

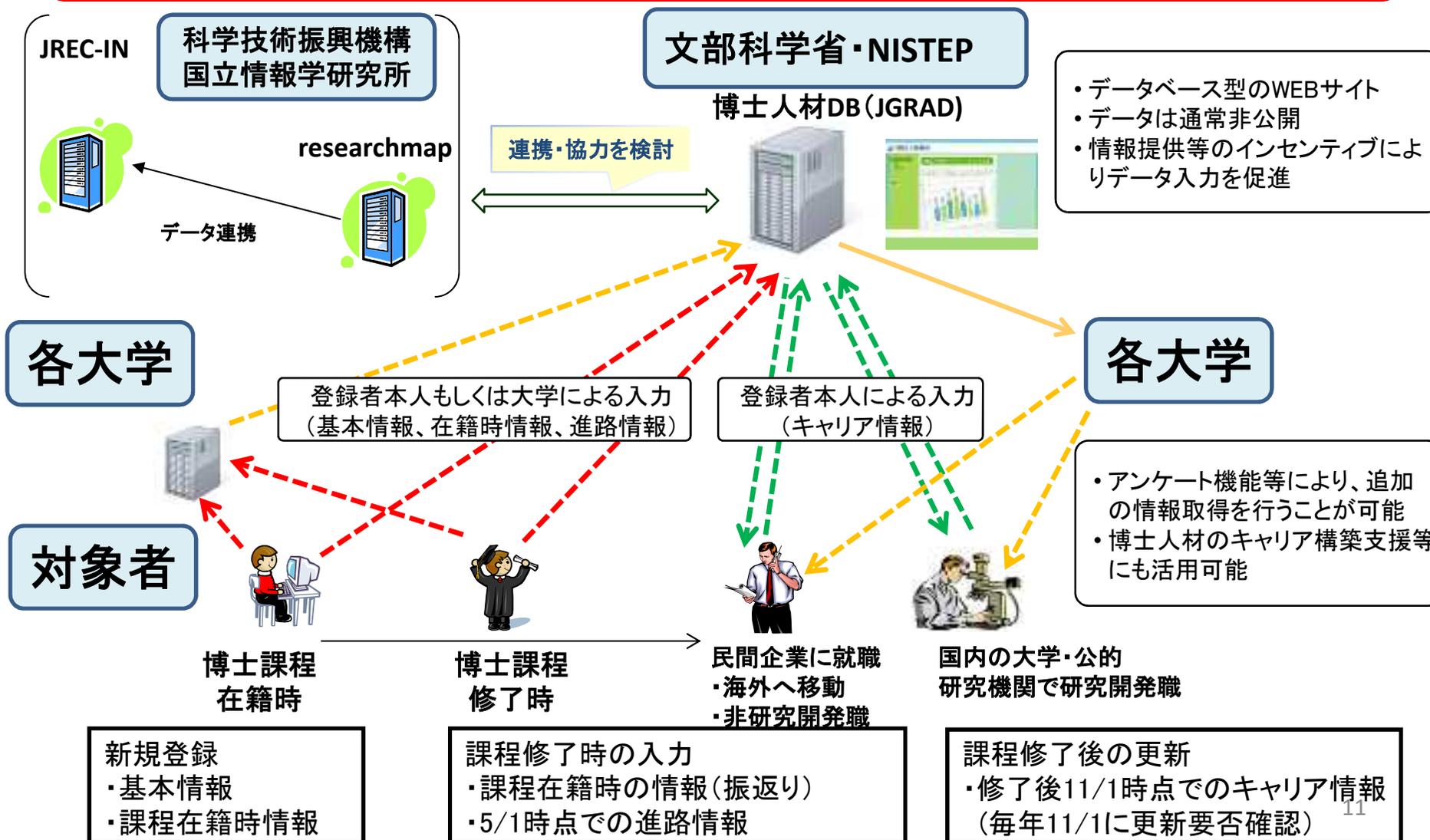


出典: NISTEP REPORT NO.165

### 3. 博士人材データベース(JGRAD)の概要



- 2014年度以降の博士課程修了者(年間約15,000人修了)を登録対象者とし、  
修了者個人が自身の属性やキャリア情報を入力・更新する進路追跡システム。
- 日本語/英語での入力が可能

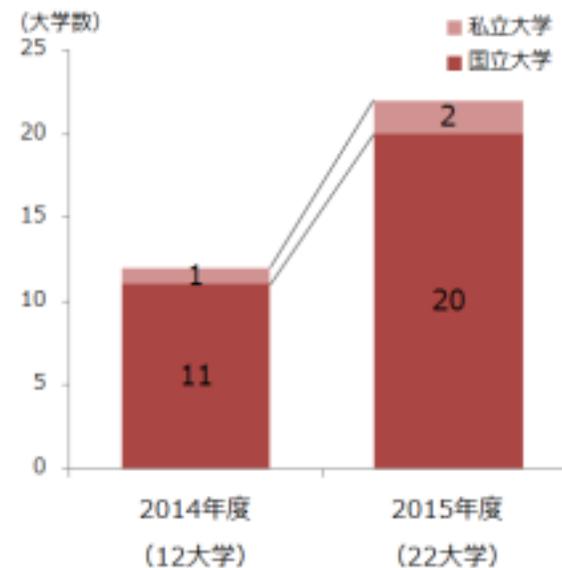


# 2015年度JGRADパイロット運用への大学の参加状況



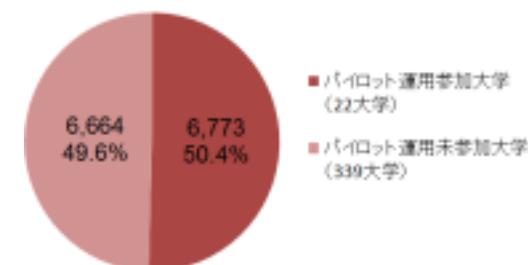
大学名	後期博士 学生数※2	2015年度パイロット運用 参加形態	2014年度パイロット 運用参加の有無
東京大学	6,037	一部（理学）	
京都大学	3,647	一部（6研究科）	
大阪大学	3,120	全研究科	○
東北大学	2,735	全研究科	
九州大学	2,694	一部（3研究科）	
北海道大学	2,416	一部（8研究科）	○
筑波大学	2,280	一部（4研究科一部）	○
広島大学	1,668	全研究科（修了生のみ）	○
神戸大学	1,589	全研究科	○
東京工業大学	1,553	一部（理工一部）	○
岡山大学	1,231	全研究科	○
慶應義塾大学	1,214	一部（理工）	○
東京医科歯科大学	1,118	全研究科	○
熊本大学	710	一部（自然）	
東京農工大学	496	全研究科	○
長崎大学	469	一部（3研究科）	
お茶の水女子大学	466	全研究科	○
奈良先端科学技術大学院大学	297	全研究科（D3のみ）	○
東京理科大学	285	全研究科	
電気通信大学	217	未定	
奈良女子大学	196	全研究科	
豊橋技術科学大学	108	全研究科	

## 参加大学数の推移



2015年11月末現在22大学参加

## 博士号授与件数全体に占める 参加大学のシェア



※後期博士学生数は2012年度データ、慶應義塾大学・豊橋技術科学大学・東京理科大学は2014年度データ

パイロット運用参加大学が全学参加した場合、国内の博士号授与件数の半数以上を占める